

温 泉 分 析 書

- 1 申請者 静岡県静岡市葵区追手町5番1号
静岡市長 田辺信宏
- 2 源泉名及び湧出地 コンヤ(大ノ木) 梅ヶ島コンヤ2号
静岡市葵区梅ヶ島字大ノ木4210番1
- 3 湧出地における調査及び試験成績
- (1) 調査及び試験者 株式会社サイエンス 野本 裕之
- (2) 調査及び試験年月日 平成27年7月13日
- (3) 泉温 31.7 °C (調査時の気温 28.6 °C)
湧出量 174.5 L/min (動力 3.7kW水中ポンプ)
- (4) 知覚的試験 無色澄明、無味、微硫化水素臭
ガス発生なし
- (5) 水素イオン濃度(pH値) 10.3
- 4 試験室における試験成績
- (1) 試験者 株式会社サイエンス 石川一郎
- (2) 分析終了年月日 平成27年7月31日
- (3) 知覚的試験 無色澄明、無味、微硫化水素臭
- (4) 密度 0.9985 (20°C/4°C)
- (5) 水素イオン濃度(pH値) 10.23
- (6) 蒸発残留物 0.235 g/kg (110 °C)
- (7) 電気伝導率 27 mS/m

5 試料1kg中の成分、分量及び組成

(1) 陽イオン

成 分	ミリグラム (mg/kg)	ミリバル (mval/kg)	ミリバル% (mval%)
ナトリウムイオン Na ⁺	92.7	4.03	97.24
カリウムイオン K ⁺	1.4	0.04	0.86
アンモニウムイオン NH ₄ ⁺	0.5	0.03	0.67
カルシウムイオン Ca ²⁺	0.8	0.04	0.96
アルミニウムイオン Al ³⁺	0.1	0.01	0.27
陽イオン計	95.5	4.15	100.00

(2) 陰イオン

成 分	ミリグラム (mg/kg)	ミリバル (mval/kg)	ミリバル% (mval%)
ふっ化物イオン F ⁻	0.3	0.02	0.38
塩化物イオン Cl ⁻	1.1	0.03	0.74
水酸化物イオン OH ⁻	3.4	0.20	4.79
硫化水素イオン HS ⁻	6.2	0.19	4.50
硫酸イオン SO ₄ ²⁻	3.6	0.07	1.80
炭酸水素イオン HCO ₃ ⁻	8.4	0.14	3.30
炭酸イオン CO ₃ ²⁻	79.0	2.63	63.15
メタけい酸水素イオン HSiO ₃ ²⁻	68.0	0.88	21.15
メタほう酸イオン BO ₂ ⁻	0.3	0.01	0.17
陰イオン計	170.4	4.17	100.00

(3) 遊離成分

①非解離成分

成 分	ミリグラム (mg/kg)	ミリモル (mmol/kg)
非解離成分計	0.0	0.00

溶存物質(ガス性のものを除く) 0.266 g/kg

②溶存ガス成分

成 分	ミリグラム (mg/kg)	ミリモル (mmol/kg)
溶存ガス成分計	0.0	0.00

成分総計 0.266 g/kg

(4) その他微量成分

成 分	ミリグラム (mg/kg)
カドミウムイオン Cd^{2+}	0.001未満
鉛イオン Pb^{2+}	0.005未満
銅イオン Cu^{2+}	0.1未満
メタ亜ひ酸イオン AsO_3^-	0.005未満
総水銀 Hg	0.0005未満
リチウムイオン Li^+	0.05
ストロンチウムイオン Sr^{2+}	0.04
鉄(II)イオン Fe^{2+}	0.03
鉄(III)イオン Fe^{3+}	0.01
チオ硫酸イオン $S_2O_3^{2-}$	0.03
りん酸水素イオン HPO_4^{2-}	0.08

6 泉質

単純硫黄泉

(低張性・アルカリ性・低温泉)

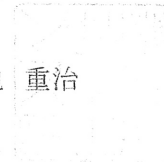
7 禁忌症、適応症等は別表による。

平成 27 年 8 月 11 日

温泉分析機関 静岡県第5号

静岡県静岡市清水区小芝町4-13

株式会社 サイエンス 代表取締役社長 堀池 重治



温 泉 分 析 書 別 表

1. 源 泉 名 コンヤ (大ノ木) 梅ヶ島コンヤ 2 号
2. 源泉所在地 静岡県静岡市葵区梅ヶ島字大ノ木 4210 番 1
3. 温泉分析申請者 静岡県静岡市葵区追手町 5 番 1 号 静岡市長 田辺信宏
4. 泉 質 単純硫黄泉
5. 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。

(1) 浴用の一般的禁忌症

病気の活動期(特に熱のあるとき)、
活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、
少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、
消化管出血、目に見える出血があるとき、
慢性の病気の急性増悪期

(2) 泉質別禁忌症

皮膚又は粘膜の過敏な人、高齢者の皮膚乾燥症

(3) 浴用の一般的適応性

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、
神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、
運動麻痺における筋肉のこわばり、
冷え性、末梢循環障害、
胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、
軽症高血圧、
耐糖能異常(糖尿病)、
軽い高コレステロール血症、
軽い喘息又は肺気腫、
痔の痛み、
自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、
病後回復期、
疲労回復、健康増進

(4) 泉質別適応症

アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、慢性湿疹、表皮化膿症

(5) 浴用上の一般的注意事項

ア. 入浴前の注意

- (ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
- (イ) 過度の疲労時には身体を休めること。
- (ウ) 運動後 30 分程度の間は身体を休めること。
- (エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1 人での入浴は避けることが望ましいこと。
- (オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
- (カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、入浴前にコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ. 入浴方法

- (ア) 入浴温度

高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。

(イ) 入浴形態

心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

(ウ) 入浴回数

入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。

(エ) 入浴時間

入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

ウ. 入浴中の注意

(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。

(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽からゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ. 入浴後の注意

(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)

(イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

オ. 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ. その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

(注) この別表は、温泉法第18条による掲示に必要な参考資料となるものである。

(注) 温泉飲用に当たっては、細菌検査及びその他の有害物質等の分析検査を実施し、衛生状態の確認が必要です。

別表発行年月日 平成27年8月11日

静岡県静岡市清水区小芝町4番13号

株式会社 サイエンス

代表取締役社長 堀池 重治